

科目コード	ナンパリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
33001	X-21-B-3-330012				専門	選択必修	1年
授業科目	担当教員						
日韓朝関係論	吉澤 文寿	2	前期	【1年次生】国際学部国際文化学科 【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース 【2年次生以上】国際学部国際文化学科 【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1年次生】経営情報学部経営学科 【1年次生】経営情報学部情報システム学科 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 専門 × ×	選択必修 選択 選択 選択 × ×	1年 1年 1年 1年 × ×

授業目的

この講義は「日本史（近現代）」および「韓国朝鮮史概説」の内容をふまえて、植民地支配と南北分断の問題をテーマとして、おもに1945年から現在までの日本と南北朝鮮との関係を考察することにより、朝鮮現代史および日朝関係史を連関させて理解することを目指す。

各回毎の授業内容

第1回

【授】講義の概要、レポート作成および参考文献案内

【前・後】伝達事項の確認（予習・復習各2時間）

第2回

【授】問題の所在（1）…植民地支配をどのように問うのか

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第3回

【授】問題の所在（2-1）…朝鮮の「解放」、そして分断体制の成立と日本

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第4回

【授】問題の所在（2-2）…朝鮮戦争、そして日本との関係について

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第5回

【授】問題の所在（3）…在日朝鮮人の形成（1945～1952年）

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第6回

【授】在日朝鮮人帰国事業～1950年代の日朝関係

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第7回

【授】日韓国交正常化（1965年）

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第8回

【授】米中和解と南北対話の開始～南北共同声明（1972年）をめぐる展開を中心に

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第9回

【授】1970・80年代の日本と南北朝鮮～経済と人権の問題を中心に

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第10回

【授】在日朝鮮人と日本社会～1970・80年代を中心に

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第11回

【授】脱冷戦と南北対話の進展（1987年～現在）

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第12回

【授】日韓関係における「過去清算」問題

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第13回

【授】日朝国交正常化交渉

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第14回

【授】脱冷戦期の在日朝鮮人と日本社会

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第15回

【授】まとめ…現在の日本と南北朝鮮との関係と私たちの課題

【前・後】書籍等で関連部分の予習／復習（予習・復習各2時間）

第16回

【授】定期試験（レポート提出）

【前・後】レポート作成（予習・復習各2時間）

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							70
小テスト・授業内レポート							30
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

レポートによって単位認定をする。ただし、私が担当する他の講義より高い完成度を求める。

講義ごとに配布するミニツッペーパーも成績評価に加味する。

ミニツッペーパーは授業中に公表し、講評を加える。

教科書参考書

教科書は使用しない。講義時にレジュメを配布する。

受講に当たっての留意事項

本講義を理解する上で、「日本史（近現代）」および「韓国朝鮮史概説」を履修しておくことが望ましい。

学習到達目標

受講者が日本と南北朝鮮との関係の概要を習得したうえで、1) みずからの関心に即してテーマを設定し、2) そのテーマに即した文献および資料を収集および分析し、3) 一定の結論に到達できることを目指す。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習